



若く日に
汝の思想を培え
若く日に
汝の体躯を養え
若く日に
汝の智慧を磨け
若く日に
汝の希望を重んじ
松岡 幸次郎

第5号

(発行)
平成22年12月15日(水)
東海大学付属翔洋高等学校同窓会

「翔洋」を全国一の学校に!

東海大学付属翔洋高等学校同窓会

会長 林 芳久仁



全国でご活躍の同窓生の皆様に、同窓会を代表し、ご挨拶と活動の一端をご報告させていただきます。

昨年は、一高・工業が統合し、翔洋高校が誕生してから十周年を迎えました。

それを記念して、十一月七日に、学校・同窓会・翔洋会・PTAの共催により、本校アリーナにおきまして、合同周年式典が、松前総長先生を始め大学本部理事の皆様をお迎えし、歴代の教職員OB・同窓会・PTAのOBの皆様・現役の教職員・生徒諸君等、多くの皆様のご臨席を賜り、盛大に開催することが出来ました。

当日は、一高誕生から五十八年、工業誕生から五十年、東海中学誕生から六十年という記念すべき周年式典となり、幾多の変換をたどりながら、歴史を重ね今

日に至っていることを、改めて再認識するとともに、「天高く飛翔」し、「大洋」を航りゆく「天翔航」の輝かしい未来を確信した次第です。

同窓会活動も、新たな節目を迎え、意を新たに活動を進めて参る所存です。一つ目は、大学静岡地区の共催イベント「園遊会」で、同窓会の役割を、より発揮していきます。

二つ目は、市の最大イベント「港まつり」に、他校同窓会では真似出来ない「東海みこし」を続け、市民まつりを更に盛り上げていきます。

三つ目は、学校の建学祭に積極的に参加し、「みこしの展示」と「同窓会コーナー」を設置し、来場者に旧一高・工業の同窓会名簿や、クラブ活動の写真集、学校発行の書物の展示等で、歴史や同窓会の内容を知って頂くように努めていきます。

このような活動を通して、学校・生徒・PTAとのつながりを、より強めていきますよう、同窓会の皆様には、より多くの参加・ご協力をお願い申し上げます。

同窓会も、幾つかの課題がありますが、皆様方のお力で一致団結し、それらを乗り越え、全国一の学校づくりに邁進して

いきましょう。ぜひ、同窓生の皆様の、ご支援、ご協力を重ねてお願い申し上げます。

夢と希望、そして勇気をもって挑戦

校長 高橋 信由



同窓会報「翔」の発刊、おめでとうございます。一九九九年に東海大一高と東海大工業高が統合され

「東海大翔洋高」に生まれかわりました。そして、その翔洋高校も創立十周年を迎え、昨年盛大に十周年記念式典を執り行うことができました。これもひとえに、東海大一・東海大工の卒業生とその保護者の皆様方、および翔洋高校の卒業生とその保護者の皆様方の、御支援と御協力があったればこそと思うと、感謝感激をどのように表現したらよいかと考えます。結論は「東海大翔洋高校が県内でメジャーになることである。」ということになります。

東海大一高が東海大工高が築きあげた伝統を礎に、「さらに上を目指さなければ先輩達は、振り向いてくれない。」と、生徒に叱咤激励をしています。野球部は甲子園出場そして、全国制覇。サッカー部も国立競技場で校歌を歌おう、ラグビー部は花園で感激的なゲームをしよう、柔道、剣道は武道館で翔洋の名前を電光掲示板に浮かびがらせよう、陸上競技部は、オリンピック

選手を出そう、吹奏楽部は全国大会金賞受賞の常連校になろう、等々各部に頂点を目指すように、そして建学の精神の四ヶ条を具現化して、成人した時に、「さすが翔洋の卒業生だ」と言われるようになってほしいと思つて教育に当たっています。生徒に対しては、ことあるごとに「夢」と「希望」そして「勇気」をもって「挑戦」という言葉を贈っています。

新しいバスの紹介

九月十三日 東海大翔洋生の部活動や登下校のために新しいスクールバスが導入されました。オートマチック、前照灯に高輝度ディスプレイチャージランプ、客室ガラスに遮熱効果の高い強化サンベールグリーンガラスを装備するなど、高性能仕様のバスです。



二〇〇八年 度 クラブ 成績 報告

○男子サッカー部

静岡県高等学校総合体育大会 優勝
 全国高等学校総合体育大会 ベスト16

○柔道部

全国高等学校総合体育大会静岡県大会
 男子団体戦 優勝
 女子団体戦 優勝
 東海地区高等学校総合体育大会
 男子団体戦 出場
 男子個人戦 堀川 達也 81kg級準優勝
 馬場 康太 66kg級 3位
 平井 亮輔 100kg級 3位
 久松 達斗 90kg級 出場

女子団体戦

土屋 文香 78kg級 優勝
 綾部 友美 73kg級 3位

全国高等学校総合体育大会

男子団体戦 出場
 男子個人戦 堀川 達也 81kg級 出場
 平井 亮輔 100kg級 出場
 女子団体戦 ベスト16
 綾部 友美 78kg級3回戦
 土屋 文香 78kg級超級出場

○自転車競技部

東海地区高等学校総合体育大会
 4km速度競争 志田 和磨 4位
 全国高等学校総合体育大会
 4km速度競争 志田 和磨 出場

○フェンシング部

静岡県高等学校総合体育大会
 女子フルール 松原 加苗 優勝
 全国高等学校総合体育大会
 女子フルール 松原 加苗 出場

女子フルール 松原 加苗 出場

○陸上競技部

東海地区高等学校総合体育大会
 鈴木 咲子 女子400m 4位
 小林 柊也 棒高跳び 5位
 数崎 真子 女子100m 6位
 女子4×100mR 6位
 女子4×400mR 7位
 男子4×400mR 出場
 望月 良修 男子八種競技 出場

全国高等学校総合体育大会

小林 柊也 棒高跳び 出場
 鈴木 咲子 女子400m 出場
 女子4×100mR 出場
 女子4×400mR 出場
 2009日本ジュニア室内陸上競技大会
 数崎 真子 女子60m 準優勝
 東海陸上競技選手権大会
 女子4×100mR 3位
 日本陸上競技選手権大会
 女子4×100mR 出場

○ラグビー部

静岡県高等学校総合体育大会
 優勝 10年連続

全国高等学校ラグビーフットボール

静岡県大会 優勝 8年連続
 ○チアリーダー部
 ミスダンスドリルチーム日本大会二〇〇八
 フラッグトワラー部門 4位
 マーチングバンドバントワーリング
 東海大会金賞 十年連続全国大会出場

○吹奏楽部

東海吹奏楽コンクールA編成 銀賞
 ○美術部
 全国高等学校総合文化祭
 山梨 景子 出場

○写真部

全国高等学校総合文化祭
 杉山 貴哉・安藤友加里 出場

杉山 貴哉・安藤友加里 出場

二〇〇九年度 クラブ 成績 報告

○柔道部

東海地区高等学校総合体育大会
 男子個人戦 久松 達斗 90kg級 優勝
 馬場 康太 73kg級準優勝
 平井 亮輔 100kg級 出場
 女子団体戦 岡本 愛梨 52kg級 3位
 女子個人戦 鈴木 里穂 57kg級 出場
 岩崎 光希 78kg級超級 出場
 全日本ジュニア柔道体重別東海大会
 平井 亮輔 100kg級準優勝

○自転車競技部

東海地区高等学校総合体育大会
 スクラッチ 大村 航太 4位
 ロードレース 大村 航太 10位
 スプリント 加藤 智巳 出場
 ケイリン 杉山 洋右 出場
 3kmインディヴィデュアル・パシユ 3位
 ロードレース 望月 俊佑 出場
 2kmインディヴィデュアル・パシユ 1位
 ロードレース 鈴木 瑠子 出場
 チームパシユット 出場
 全国高等学校総合体育大会
 スクラッチ 大村 航太 出場
 ロードレース 大村 航太 出場
 ○フェンシング部
 静岡県高等学校総合体育大会
 男子個人エペ 山田那津輝 優勝
 東海地区高等学校総合体育大会
 男子個人エペ 山田那津輝 4位
 全国高等学校総合体育大会
 男子個人エペ 山田那津輝 出場

○陸上競技部

東海地区高等学校総合体育大会
 松原 奨 走り幅跳び 5位
 増田 優太 出場

男子100mH・400mH

鈴木 咲子 200m・400m 出場
 森川 美穂 100m 出場
 数崎 真子 100m 出場
 小林 柊也 棒高跳び 出場
 4×400mR 出場
 全国高等学校総合体育大会
 松原 奨 走り幅跳び 8位
 国民体育大会
 松原 奨 男子少年B走り幅跳び優勝
 東海高等学校新人陸上競技選手権大会
 小林 柊也 棒高跳び 優勝

○空手道部

東海地区高等学校総合体育大会
 山下真由美 少年女子個人形 出場
 石黒 裕太 少年男子個人形 出場
 全国高等学校総合体育大会
 山下真由美 少年女子個人形 出場
 ○チアリーダー部
 全国高等学校ダンスドリル選手権大会
 フラッグトワラー部門 4位
 マーチングバンドバントワーリング
 東海大会金賞 十一年連続全国大会出場

○アーチェリー部

世界ユースアーチェリー選手権
 杉林 りな 優勝 Jr日本新記録
 世界大会 出場
 ○写真部
 全国高等学校総合文化祭
 安藤友加里 出場
 ○美術部
 版画甲子園
 弓桁 一伴 出場

弓桁 一伴 出場

部活動紹介

●陸上競技部 成功を収めるための方程式

高等学校・中部部陸上競技部顧問 菅間 友一

翔洋高校に赴任して八年目の今年度悲願であったインターハイ優勝そして日本代表選手を出すことができました。今チームは非常に波に乗っており、全国からの注目を浴びるようにもなりました。多くの全国大会出場者・県大会上位入賞者を生むようになったのには、独自の指導理念・トレーニング方法があります。

（心の教育）

現在の指導方法の基本となるものはある人物と出会い、高校生指導というのを学ぶことができたからです。その人物は瀧合賢司先生（奈良県立添上高等学校監督）です。インターハイ総合優勝経験者でもあり、数多くのインターハイ・全日中優勝者を育ててきた瀧合先生が、強いチーム作りとして必要なことは、「土台（基礎）をつくらなければ家が建たない」と同様に、高校生にとって学校生活が基礎。学校教育、高校生活のなかで部活動が成り立っている以上、競技力を支える土台は人間教育、すなわち心の教育にある」と。学業もさることながら人として生活していく上でのマナーや礼儀、挨拶、習慣など、生活面でのさまざまな総括の土台ができて初めて競技力の向上につながる。そうした考えのもと、添上高校では徹底した「心の教育」に重点が置かれています。実はこの元になっているものはケイロードの「勝利のピラミッド」です。人間として生きていく上で土台にあたるのが「勤勉」「友情」「忠実」「協力」「情熱」とされ、勉強や練習だけでなく何事にもまじめにコツコツと取り組む姿勢、思いやりの心、自分に嘘をつかない信念、社会・集団のなかで助け合いの気持ち、好きになる心の大切さが示されています。その下地に肉体と精神のバランスで

ある「自己制御」、指示がなくても助ける力である「機敏」、自ら考えられる力「イニシアチブ」、そして、集中してものごとにあたることのできる「熱中」が築かれる。そうしてできあがった土台部分こそが、「心の教育」が担う部分で、この土台をしつかり築かなければただ陸上の技術、テクニクだけを教えても、なんの意味も持ちません。チームとしての大きな目標をチーム全員で目指すこと。競技者だけで試合や練習はできません。競技者、マネージャー、トレーナー、監督、コーチが各々の役割をこなすと同時に、必ず誰かに助けて（応援）いただいていることを忘れてはいけません。誰からも愛され、誰からも応援される強い部活動を目指して日々活動をしています。

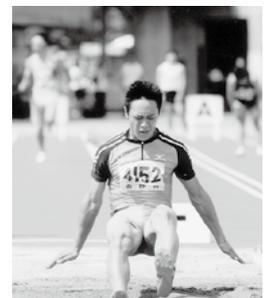
翔洋陸上競技部はこれからももっと強くなり「心の教育」という土台の上立つ技術を学んでいくからこそ、本番できっちり力を発揮できるからです。



ユースオリンピックピックで学んだこと

2年6組 松原 奨（静岡東中出身）

ユースオリンピックピックという、初の世界大会を経験し、僕は多くのことを学びました。長期遠征となり、試合の予選と決勝の間に日が空いたので、食事、体調などの管理を自分でやるのがとにかく一番大変でした。試合については、やり慣れていない会場、気候、雰囲気などに正直、少し不安な気持ちの自分がいま



した。しかし、普段からそれよりも楽しむ気持ちで忘れないで試合に挑むようにしてきたので、不安な気持ち

も試合中は忘れていました。もちろん優勝を狙っていたので、二位という結果に満足はしませんでした。しかし、この試合で勝負強さを見せられることができ、面白い試合展開ができたことは成長でもあり、嬉しく思っています。やはり、世界大会なだけあって観客の声援も、こちらの大会とは比べものになりませんでした。こんなに楽しめる試合はめったにあるもんじゃありません、改めて世界大会の凄さを実感できました。

学んだことは決して試合だけではありません。同じ日本の仲間と長期間過ごしたことから、試合の挑み方、生活などをたくさん参考にできました。世界中の人々が集まったので、たくさん交流する機会があり、片言でありながらも英会話をし、多国の人々と自分たち日本との繋がりをとても実感できました。この試合は単に試合で勝ち負けを決めるためにあるわけではなく、多くの国との交流を深めるのが目的なのではないかと思えました。こういう試合に参加できたことを多くの人に感謝し、是非また参加できるように、これから日々努力し続けていきたいです。

●吹奏楽部 翔洋サウンドを紡ぎ出せ

音楽監督 塚本 伸一

東一ブラスとして皆さまに愛された吹奏楽部は、今年創部50年を迎えます。この半世紀の間には、全国大会と名のつくコンクール等へ40回以上出場したり、ど派手な演出を伴った演奏会が好評だったり、全国にその名を

轟かせてきました。工業高校吹奏楽部と合流して12年目を迎える現在の翔洋ブラスは、栄華を極めた一時代とは異なり、不祥事続きで、多くの皆さまにご迷惑をおかけしてききました。とは言っても部員たちは「常に前向き」に音楽活動をおこなっています。

今夏のコンクールでは、A編成55名編成の部に28名で参加。審査員がどう評価するか前例のないほどの極少数人数での戦い。部員もそうであったが私自身もどこまで勝ち進むことが出来るか想像出来ない状況でした。県大会で悲願の金賞。ダメ金でしたが、部員たちの眼には感動の涙が溢れんばかりだったことを記憶しています。

「翔洋ブラスはやるねえ」と声を掛けてくれる多くの皆さまのためにも、新しい音楽づくりを模索しています。ジャズを中心としたビッグバンド編成では、現役十OBの協力でも成り立っています。いい音楽をするためには何事にも挑戦していきます。コンクールだって、たとえ10人になったとしても、A編成で



出場します。常に前向きであり続けたいと思います。12月23日の定期演奏会は、そんな「新しい翔洋ブラス」を披露する演奏会になります。多くの皆さまのご来場を心よりお待ちしております。

創部50周年・運営定演40回記念
第12回定期演奏会

主上座
New Marching Show
"HAGROMO."
音楽監督
50周年を記念して
特別企画、高橋由美

2010年12月23日(祝) 開演:14時30分 開演:15時00分
会場:静岡市清水文化センター大ホール
指揮:塚本 伸一(音楽監督・兼任指揮者)
前売券:500円 当日券:1,000円(若干枚)

チケット取組 翔洋高等学校 TEL:054-816-0736 コックン(電話) 清水駅前 TEL:054-812-0088
協賛(順次) 清水市(清水市) 清水市立中央図書館(清水市) 清水市立中央図書館(清水市) 清水市立中央図書館(清水市)
清水市立中央図書館(清水市) 清水市立中央図書館(清水市) 清水市立中央図書館(清水市)

東海大学付属翔洋高等学校吹奏楽部

学 校 行 事

四月

中・高合同入学式
一年生宿泊訓練(山の村)
PTA後援会総会



五月

建学の地美化運動・生徒総会
薬学講座



六月

前期中間試験
演劇教室
公開授業



七月

二年生沖繩研
修旅行(平和
学習)

運動部壮行会
スポーツ大会



八月

学園オリンピック大会
オープンキャンパス
PTA役員・評議員会(地区会)

九月

前期期末試験
防災訓練

十月

前期終業式
地区会・クラス懇談会
体育祭(草薙陸上競技場)・建学祭
弁論大会・六六・六km踏破



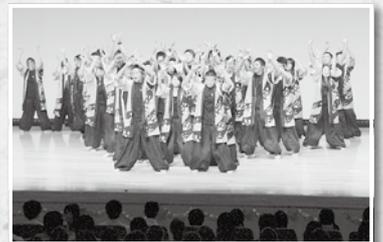
十二月

特進ハワイ研修旅行
バンドフェスティバル
吹奏楽定期演奏会



十一月

建学記念式典
生徒会役員選挙
後期中間試験



一月

新年式(全校集会)
三年小論文模試・卒業試験
推薦入学試験



二月

入学試験
三年生を送る会

三月

同窓会クラブ表彰・入会式
卒業式・修了式・離任式



恩師のたより

「Y字校舎」に想う

高橋 嗣男



退職後、早くも十一年程歳月が過ぎた。今は、何一つ生産的、向上性もなく日々の流れに添って過ごしている。折戸キャンパスの

そばに住んでいることもあり、生徒の登下校、行き交う様子を眺め、現職時代の生徒達のこと、自分の高校時代のことなど重ね、過ぎし日々を振り返り、それぞれの時代、社会、家庭構造など想い、後悔先に立たないが、若い人達を羨ましく思う。気は若い積もりだが老境を何とか過ごしている今日この頃です。数多くの「思い出」もあるが、工高、一高の卒業生が時折顔を出してくれる。大変嬉しい。其はさておき。

私は、学生時代を終え、都内のS大付高校に五年程勤務、その頃、東海大学の知人のお誘いで紹介を戴き、昭三十七年、当時学務局長牧野不二雄先生、松前重義理事長・学長の面接を経て工業高校に赴任することになりました。

先輩の同窓生はご存知の通り、校舎は三層、一高の裏側に続く平屋で長屋を思わせる仮校舎。同年八月全教職員、全生徒、ご父兄の協力で、暑い中二日掛かりで折戸に移転。旧東京商船大学跡の危険が伴うような場所もある木造校舎であった。グラウンドもなく校舎前（現海洋学部事務棟）の広場を使用。三角ヘースの野球ソフトが主流だった。正直驚きの連続であった。

その後、昭三十八年十月、念願の「Y字型校舎」本館である一号館が落成。周囲から羨望の的となり話題を集めた。前後して諸施設も順次完成をみた。

過日、六月二十日「Y字校舎お別れの会」なる案内を翔洋高同窓会より届き出席させていた

だいた。時折小雨（涙雨）もあったが、同窓生の皆さん、旧教職員の方々が参集お話しする機会ができて嬉しく思った。

法人として静岡地区再計画等あつてのことだが、卒業生や教職員共に過ごした学舎を想うとなんとも言えない感慨が脳裏をかすめた。三保の仮校舎だけで卒業した一期生、折戸へ移ったが新校舎に入らず卒業した生徒。そして、学校設立を願って尽力した地元の方々、推進した大先輩やご父兄、払い下げや土地問題等々筆舌に尽くしがたい難題解決に努力された関係者。生徒を指導された現場の先生方等皆さん、多大なご苦労に改めて敬意を表し、忘れてはならないことと思う。

同窓会林芳久仁会長のもと、より多くの会員が参加し、一層団結前進、活発な活動に感謝を申し上げ、拙い文を閉じます。



進路状況

本校の進路指導は東海大学学園の一貫教育システムを活かし、東海大学への推薦入学80%以上を目指すとともに、国立大学や私立他大学への進学、留学など、生徒一人ひとりの希望に合わせた進路指導とサポートを行なっています。

二〇〇九年度卒業生の進路状況は大学進学85.0%（東海大学67.0%）、就職(6.6%)、専門学校(6.4%)、その他(2.0%)でした。

〈東海大学〉

文学部(38)、観光学部(10)、政治経済学部(12)、総合経営学部、法学部(9)、教養学部(6)、国際文化学部(2)、理学部、情報通信学部(10)、工学部(31)、産業工学部、生物理工学部、農学部、体育学部(13)、医学部(2)、健康科学部(2)、海洋学部(26)

〈東海大学短期大学部(静岡)〉(24)

〈ハワイ東海インターナショナルカレッジ〉(2)

〈東海大学医療技術短期大学〉(1)

〈他大学〉

東京学芸大学、静岡大学(2)、静岡県立大学、静岡文化芸術大学、都留文科大学、福井大学、室蘭工業大学、北海道医療大学、国際武道大学(4)、青山学院大学、法政大学、明治大学、中央大学、東京理科大学、日本大学(2)、拓殖大学(2)、明治薬科大学、淑徳大学、明海大学、武蔵野音楽大学、洗足学園

音楽大学(2)、東京造形大学、芝浦工業大学、桜美林大学、神田外語大学、神奈川大学、産業能率大学、山梨学院大学、金沢工業大学、常葉学園大学(4)、静岡福祉大学(4)、静岡産業大学、浜松大学、愛知学院大学、中京大学、岐阜経済大学(3)、近畿大学、大阪学院大学(3)、阪南大学、神戸国際大学、放送大学、上海外国語大学、静岡県立大学短期大学部、横浜創英短期大学、常葉大学短期大学

〈専門学校〉

大宮国際動物専門学校、東京医薬専門学校、日本工学院専門学校(2)、東京スクールオブビジネス、横浜カレッジ専門学校(2)、神奈川衛生学園専門学校、中央調理製菓専門学校静岡校、静岡県理美容専門学校、大原法律公務員専門学校静岡校、大原簿記情報医療専門学校静岡校、静岡工科大学自動車大学校、静岡デザイン専門学校、静岡福祉医療専門学校、東海リハビリテーション専門学校、東京法律専門学校名古屋校、NHK学園

〈就職〉

丸長鍍金、TSUBAKI、日野自動車、大工養成所、特別養護老人ホーム白扇閣、伊藤園、八代不動産、静岡県警察官、岐阜県消防官、岐阜市福富医院ディサービス、トークインコーポレーション、静岡市立清水川原保育園、東海ヒューマンリソースマネジメント、シエルドマリ美養スクール、堀池鉄筋

同窓会活動報告

Y字校舎お別れ会



六月二十日（日）、同窓会総会に引き続き、愛称Y字校舎・一号館の玄関前広場に会場を移し、正午から「お別れ会」が催されました。東海大学甲府高校理



事長の遠藤先生をはじめご来賓をお迎えし、同窓生、現旧教職員など多くの関係者が集い盛大に行われました。

参加者は工業高校時代やY字校舎について語り合い、思い思いの話を花を咲かせていました。祝宴のアトラクションでは吹奏楽部員が、途中から降り出した雨をものともせず、熱演し盛り上げてくれました。

Y字校舎は一九六三年十月に完成し、工業高校三十六年、翔洋高校十一年、通算四十七年間の長きに亘りシンボルとしてその勇姿を見せてくれましたが、その役目を終え年明けに解体されることになりました。各人それぞれの馳せる想いを乗せ、和やかな裡にお別れ会の幕は下りました。

園遊会

川村 恭史

七月二十四日（土）三保文化ランド、海洋博物館前において、約六千人が集い、猛暑の中、盛大に開催されました。

翔洋高校の吹奏楽部による演奏、チアリーダー部による演舞、港かつぽれ、矢倉太鼓、大道芸、パフォーマンス、そして大抽選会が行われ、暑さに負けない力強い催しに、会場から大きな拍手が巻きおこりました。



我が同窓会はチャリティーバザーを担当し、かき氷とヨーヨーつりを行いました。会員の皆様からご提供頂いた品々を、

全て買って頂き、また翔洋同窓会として売上金を清水市社会福祉協議会、静岡新聞社「愛の都市訪問」へと寄附することができました。皆様方のご協力に心から感謝いたします。今後ともよろしくお願いいたします。

清水みなと祭り同窓会御神輿

実行委員長 鈴木 善久

記録的な猛暑だった今年の夏。恒例のみなと祭り同窓会御神輿が清水マリンパークを練り回った。高橋校長・千葉副校長の法被姿と百余名の会員の参加があった。



熟年会員の担ぎ手に若い多くの力量も加わった。昼食をはさんで午後まで、エネルギーを発散させ、楽しい一日でした。これを機に、会の発展と会員の益々のご健勝を祈願いたし、来年の御神輿に繋がりたい。

第三十五回連合同窓会 (相模高校) 同窓会常任幹事 藤浪 弘行

私が初めて連合同窓会に参加したのは、十九年前の平成四年第十六回甲府高校の開催でした。翌朝に松前重義総長の訃報が入り予定は全

てキャンセルとなり、甲府役員皆様方のご苦勞を思い出しながら会報を書いています。

今年も連合同窓会が発足し三十五年の記念大会となり九月十八、十九日にかけて相模高校のお世話で開催されました。今回は自動車、小澤副会長はじめ役員六名と事務局からは山田先生の七名のメンバーで参加しました。受付会場は高輪キャンパスで会長会議、総会では次回開催校（翔洋高校）も決議され、特別講演（内木文英先生）では「創始者松前重義先生と私」について面白、可笑しくお話しされました。横浜ナイトクルージングの式典では、夜景も素晴らしく各高校同士の親睦も深め合い、前校長の小坂先生ともお会いし楽しい一時でした。

翌日は相模高校のホームカミングデー見学、卒業生五〇才で学校に里帰りする式典で、現在十一校中五校が実施しています。昼食は横浜中華街（同發別館）で中華料理を頂きながら、小澤副会長が次回開催校の挨拶と皆様の多数参加を呼び掛け、五本締で第三十五回連合同窓会を閉会しました。

相模高校同窓会の皆様には大変お世話になりました。次回連合同窓会では見てきた事を参考にやり組んで行きたいと思っております。



第35回東海大学高等学校連合同窓会記念大会 2010年9月18～19日

同窓会報告

東海大工第十一期生 同窓会報告

十一期電気科幹事



二〇一〇年二月十三日静岡「花薦鳳月」にて、三回目となる東海大学工業高校第十一期生同窓会を開催いたしました。当日はお忙しい中、杉本先生、渡辺先生、伊藤先生が出席してくださいました。先生方は大変お元気で懐かしいお話を聞かせて頂く事ができました。

懇親会では、大工の懐かしいVTRや当時の新聞記事を話題に旧交を温める事ができました。最後に恒例になっている橋本君の三本締めと杉山君のエールで盛り上がった会も終宴となりました。

次回も恩師の先生方をお招きし、楽しい一時を過ごす会を計画しますので、同窓生の多数の出席をお願いいたします。お手伝い頂きました機械科の皆様大変お世話になりました。

東海大学第一高等学校

昭和四十一年度卒

我がクラスの同級会

薬科 公介

卒業をして四十五年、我々のクラスは卒業時に四十八人、途中二人の仲間が他界している。還暦を迎えクラス全員で同級会を行う事になった。還暦は一つの節目、以前何回か少人数での同級会を行っているが、クラス全員に声をかけての同級会は初めてであったのでは？其々定年

を迎え第二の人生の門出を祝い昔の仲間と童心に帰って楽しみたいと皆さん思っていたに違いないと思う。渡辺貢先生にも参加をお願いし二十四人が集まった。其々四十二年経って顔を合わせた人が多かったが顔と名前が合わない人が何人か居た。話をしたすと、皆昔の面影が浮かぶ。昔を思い出して楽しい一夜を過ごす事が出来た。二年に一度クラス会を開く事に皆さん賛成をし、今年四月に熱海で泊まりの同級会を開く事が出来た。「うたの宿」参加者は渡辺貢先生を含め十六人。今回は泊まりと云う事で少し参加者が減ったが、其々気心の知れた仲間、二年前のクラス会より飲んでも帰らなくて良い事もあって、飲んで歌って大いにはしゃいで、特に孫の話も話題であった。学生時代の話も弾み気が付いたら夜中の十二時を回るほど、大いに盛り上がった、クラス会であった。幹事を務めてくれた脇田君・山崎君には感謝を申し上げます。次の会は平成二十四年です。宜しく。



東海大学工業高等学校

二十七期小規模同窓会報告

東海大学工業高校 二十七期卒業有志一同

高校を卒業して二十年以上の月日を迎え日ごろから連絡を取り合っている仲間が小規模な同窓会を行いました。

当日は、思っていた以上の人数が集まり驚きました。懐かしい顔ぶれに当時の記憶を思い起こしながら楽しい時間を過ごす事ができました。

当時よく遊んだ仲間は、相も変わらずで…全く話さなかった人もなぜか懐かしく…気付けばみんな当時のやんちゃな顔になっていました。

「ようこそ先輩」で宝井駿之介師匠来校

同窓会事務局 山田芳平

【熱翔】をテーマにした第12回建学祭が23・24の両日行われた。同窓会は毎年展示部門に参加し、アルバムや記念誌などの資料を展示している。今年の建学祭では例年生徒会が行っていた「ようこそ先輩」を同窓会が東海大高一卒業の講談師宝井駿之介師匠を迎えて行った。

宝井駿之介師匠は田辺一鶴師匠に師事し田辺駿之介として活躍していたが、昨年一鶴師匠が亡くなったため、今は一鶴師匠の弟弟子の宝井琴梅門下となり真打昇進に向け活動をしている。今回は張り扇を手に講談師は落語家に比べ人数の少ないことや落語と講談の違い、一鶴師匠の修業の裏話などをユーモアたっぷりに話した。また、講談では三方原合戦をテーマにした「三方ヶ原軍記」や田辺一鶴師匠の「東京オリンピック」の一節も披露した。

なお、今年も展示会場では来場者に無料コーヒーを振る舞い、「愛の都市訪問」に寄付するためのチャリティー募金も行った。



編集後記

(旧)一高、(旧)工業の兄弟高が一緒に翔洋高校としてスタートを切って十周年を迎える事が出来ました。又、会報誌も五号を発刊する事が出来、これもひとえに生徒及び後援会、同窓会の皆様のご協力のたまものと感謝です。又来年の連合同窓会は翔洋高校での開催が予定されており、皆様方の増々のご協力をお願いいたします。今後、同窓会活動を皆様方と一緒に進めて行き会報誌を交流の場に出来たらと思います。これからのご協力をお願いすると共にご意見、ご希望をお聞かせ下さい。

会報委員会一同

